

高等学校の試合のアドバイザーについて

- 高体連主管の学校対抗（春季強化・県総体・夏季強化・新人・（あれば冬季強化））
 - ・ 監督は、その学校の専任教職員及び学校長の認めた指導者であること。監督は役職者章をつけること。
 - ・ タイムアウトが可能な試合
 - 強化大会は決勝トーナメントから
（強化大会なので、監督のタイムアウトの練習面からも存続する）
（予選リーグ以降のシードにかかわる試合は可能）
 - 県総体は決勝のみ（インターハイ決定戦）
 - 新人大会は決勝リーグから

- 高体連主管の個人戦（春季強化・県総体・新人・選抜個人）

監督 (アドバイザー)	
----------------	--

男子学校対抗の部			
	姓 名	学年	生年月日
監督			
◎選手1		#	・
選手2		#	・

- ・ 大人の方で監督（アドバイザー）になる場合は、参加申込書の監督（アドバイザー）欄に記入する。
 - ※ 監督（アドバイザー）欄には複数名記入可能だが、当日アドバイザーに入れるのは各チーム男女1名のみ。校長が認めた、外部指導者でもよい。日本卓球協会のアドバイザー登録をしておくこと。
 - ※ 学校対抗の監督は「その学校の専任教職員及び学校長が認めた指導者」
- ・ エントリーしている選手は、アドバイザーなることは可能。
- ・ アドバイザーが入ることができる試合
 - 春季強化大会・県総体はシングルスベスト16決定戦、ダブルス8決定戦から。
(四国大会決定戦)

新人戦・選抜個人はシングルス準々決勝、ダブルス準決勝から。

- ・ タイムアウトが可能な試合
 - すべての試合で、シングルス準々決勝、ダブルス準決勝から。（インターハイ決定戦）

- 県卓球協会の個人戦（国体予選・全日本ジュニア）

- ・ アドバイザーは館内に入っているものであれば、誰でもよい。
（参加申込書に記載するところはない）
- ・ アドバイザーが可能な試合 ベスト16決定戦から
- ・ タイムアウトが可能な試合 準々決勝から（国体予選は2次予選（リーグ）から）

- アドバイザーの移動について

- ・ 基本的な考え方
 - ・ 一人の選手に一試合につけるアドバイザーは一人のみ
（次の試合では別のアドバイザーがついてよい）。
 - ・ 一人のアドバイザーは何人の選手に入ることができる。
 - ・ 試合途中で離れてもよいが、以降はそのコートに復帰できない。
（県卓球協会の大会は可能）
 - ・ アドバイザーが入っていなかったコートに、試合途中から入ることはできる。
（↑インターハイでは他の試合のアドバイスに入っていた場合のみ可能）

	途中で退席する	途中でアドバイザーに入る	別の選手のアドバイザーに入る	途中で退席し再度入る	別のアドバイザーが一人の選手に入る
高体連 県総体 新人戦 選抜個人 強化大会	○	○	○	×	×
県協会 国体予選 全日本Jr	○	○	○	○	×